

港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

第二号

TEL 045-547-2324 FAX045-531-9561 E-mail hokuhoku@kouhoku-shakyo.jp

2012年11月

入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください。

災害ボランティアコーディネーターの【い】【ろ】【は】

7月28日に横浜YMCA山添館長による講座に32名の会員が参加し、コーディネーターのあり方について考えあいました。(付岡)

コーディネーターは何をする？

災害時には全国から大勢のボランティアが支援のために駆けつけます。そのボランティアの方々に的確な支援活動を行なってもらうために働くコーディネーターの存在は不可欠です。

コーディネーターは、災害ボランティアセンターを立ち上げ、駆けつけたボランティアと被災者の双方に情報を発信し、ニーズの調整・支援をするという役割があります。

☆ 災害ボランティアセンターと被災者・ボランティア及び行政や、地域防災拠点との関係についての重要性について図を用いて説明された。

特に地域防災拠点との関係はとても大切です。拠点には、多くの被災者が避難してきています。又、自宅で過ごしている被災者もいます。行政の災害対策本部と連携・協力して被災者のニーズを吸い上げ、物資(日用品・食料品など)の支援など生活の支援をします。

聞き上手が秘訣

現場でスムーズなコーディネートやより良い人間関係を保つためにコーディネーターに求められる資質についてもふれられました。

聞き上手・被災者やボランティアの思いや経験を尊重出来る・相手の立場になって考えられる・受容性や実行力・正直である・上下関係にこだわらない・根気強く決められた仕事に取り組める・思いやりや応援する心を持つ・相手のペースに合わせる事ができる、のような点が挙げられます。大切なことは、思いやりを持って活動に取り組む

姿勢を持つということなのではないでしょうか。

☆ 避難所・拠点については地域によってかなり条件に違いがあります。被災した地域範囲、人口の多少、地域に若い人が少なく高齢者が多い、男手が少ない、ボランティアが来やすいかどうか(地形・交通便)など色々ある状況を読んで支援するのもコーディネーターの役割です。

避難所や仮設住宅での生活が長くなれば身体だけでなく精神的なストレスも大きくなり被災者や、ボランティアへの心のケアが必要になります。そこからもコーディネーターの資質が大事なことだと分かるのではないのでしょうか。



講師の話に耳を傾ける

参加者募集中

シミュレーション訓練

12月1日(土) 9時~15時

毎年行っている災害ボランティアセンター設置運営の訓練を行います。受付・登録、送り出し、フォロー、本部、情報ニーズ等の担当にわかれ、作業内容や役割、動きなどを確認します。

コーディネーター役(20名)と現場に行くボランティア役(30名)を募集しています。

問い合わせ、申し込み先 港北災害ボランティア連絡会事務局(港北区社会福祉協議会)
TEL045-547-2324 FAX045-531-9561

申し込み期間 11/15~11/30 電話又はFAX

10月定例会報告

県総合防災センター一見学

10月17日(水)

井上会長(港北区ボラ連)、白井副会長(個人)、井上、山本、(区社協)、小澤(富士塚ボランティアグループ)、富山、小林(手話サークルあじさいの会)、福地(社会福祉保法人・陽だまりの会)、伊東(港北区地域作業所連絡会)、松居(港北国際交流ラウンジ)、中島(個人)、中野(個人)、斎藤(個人)、山本(個人)、和田(仲手原マザークラブ)、河野(港北区ボラ連)、合計16名+一般参加者15名
記録=和田・河野。

記

関東・東海沖に大きな断層があり将来大地震発生も見込まれており、普段より災害に対する心構えが必要と思われております。

当日はAM8:30大型バスに一般の方々を含む31名が同乗し神奈川県防災総合センターに向かい、AM10:00~11:30まで施設内の各種体験コーナーをセンター職員の指導の下に実施経験した。

◆ 体験コーナー

① 地震体験コーナー

室内で今までに経験したことのない震度7の地震を体験、突然の地震にも慌てずに行動できるよう参考になった。



地震体験コーナー

② 風水害体験コーナー

風速30m/秒の強風・雨量50mm時の激しい雨を体験、雨量体験はモニターでしか出来ませんでしたが大変参考に成りました。

③ 消火器体験コーナー

水消火器を使い初期消火の体験をし万一の場合あわてずに行動できる心構えの一助になった。



④ 煙避難体験コーナー

室内で煙の中を安全に避難し落ち着いて行動が出来る方法を学ぶ。

防災シアターでは大画面で防災ビデオを鑑賞し、防災Q&Aではパソコンを使用し挑戦、通報体験コーナーでは緊急時の正しい通報の仕方、など色々と参考になる事柄を学びました。

災害トピック

中越地震の現場から

10月23日新潟県中越地震8周年となりました。中山間部の農村地帯が被害に遭い、人口減や高齢化が叫ばれていた地域の一層の衰退が懸念されました。県は復興支援員を各地に配置し地域の復興策を後押ししています。過疎が懸念される全国地域では既に地域支援員等を配置し地域おこしを行っています。これらの地域単独での解決は難しく、人口の多い都会との結びつきが大切です。いざという時の避難先や支援先の確保という観点からのつきあい方が都会側にあっても良いのではないのでしょうか。

旧山古志村や川口町、小国町(いずれも長岡市と合併)などは地理的特性を生かした農家民宿や棚田のオーナー制度、農産物の直売などに活路を見出そうとしています。一度利用されてはいかがでしょうか。

高田フェスで 災ボラをPR

10月13日12時30分より高田小学校の体育館で高田F e s ! 2012が開催されました。高田地区では同じ高田ということで東日本大震災で被災した岩手県の陸前高田市を支援しています。高田地区のキャラクター「たかたん」が陸前高田市を訪れて子供たちをはげました。陸前高田市からはおやこの広場「きらりんきっず」代表の伊藤昌子さんがいらして震災時や現在の状況についてお話をしてくださいました。

港北区災害ボランティア連絡会は会場にブースを設け井上会長が災害発生時のボランティアセンターの役割やボランティア連絡会の活動について話をしました。(山本)



たかたん
と記念
写真

高田東小学校防災拠点訓練

一日頃の備えがものを言うー



車椅子
利用の
方も
参加

8月21日に行った訓練では午後6時開始とし、電池のランタンや発電機を使ったLED照明を準備しました。

前回の反省を元に記入を早めるよう列に並んだときに画板を配って記入してもらおうようにしました。町内会ごとに集まった百数十名の参加者はスムーズに登録を済ませ、避難場所の体育館へ移動しその後本部や救護所などを見学し解散しました。

終了後の反省会では悪天候の場合の対応が検討されました。(山本)

参加団体紹介2

港北国際交流ラウンジ

—こんな活動をしています—

港北国際交流ラウンジは、地域の外国人市民への日常生活に役立つ身近な情報提供・相談・支援をしています。また外国の人と地域の人たちが親しくなり、お互いに異なる文化や生活習慣の理解を深める交流の場としても利用されています。

◆在住外国人への支援として次のような活動をしています。

- ★日本語教室
 - ★ニューカマー子どもの教室 (日本語を母国語としない小学生や中学生の勉強をサポート)
 - ★日本文化伝統教室 (華道・茶道・書道)
 - ★外国人ママパパ会
 - ★語学ボランティアの紹介
 - ★相談
- ◆在住外国人との交流活動、並びに地域の方を対象としたイベント等を開催しています。

- ★毎月の交流イベント
 - ★外国語教室 (大人を対象)
 - ★外国語・国際理解教室 (子ども・夏休み企画など)
 - ★世界の料理教室
 - ★ワクワクまつり (年1回)
- ◆その他、広報活動としてラウンジ広報誌「そよ風」の発行やホームページ内でブログ「みんなの広場」を運営しています。詳しくはホームページをご参照ください。

hppt://homepage2.nifty.com/kohokulounge/

案内

1 災害ボラセン図上訓練

11月18日(日)10時~16時 神奈川大学横浜キャンパス1-308教室 (白楽駅下車15分)
首都直下地震の被害想定確認、およびボラセン立ち上げと連携訓練。

2 災害ボランティア研修会

12月11日(火)14時~17時
横浜市健康福祉総合センター4階(上大岡駅前)
「政令指定都市における災害ボランティアセンターの役割」-仙台での災害ボラセンの業務や役割など・問い合わせ先
横浜市ボランティアセンター 045-201-8620

読んで役立つ 災害本

「大震災自閉っこ家族の

サバイバル」

普段でもいろいろと大変な重度の自閉の息子さんを抱えた母親はあの揺れとそれに続く混乱の中をどのように過ごしたか。

周到な用意がそれを乗り切ったことを教えてくれます。極度の偏食だから支給された弁当なんて無理、こだわりを支えて

いた日常が破壊されて彼はどうしたか、などなど、災害の日々を障害を持つ子供を抱えてどう乗り越えたか具体的に書かれた貴重な記録です。

でもみんなこのお母さんのようなスーパーマンになれるかどうか。日頃の備えから、発災時の動きから、

(高橋みかわ編著、ぶどう社刊 1600円+税)

ニュースを活用してください

創刊号は稚拙な編集でしたが、今回は読みやすくなったでしょうか。団体参加のメンバーは必要部数をお知らせください。また町内会防災担当者にお渡しいただく等会やニュースを広めるようご協力ください。



<ボラセン一口メモ>2

「ボラセンの組織」

災害ボランティアセンターにはどのような組織が必要なのでしょうか。災害時にボランティアセンターが開設される時期は災害規模によって決まってくるでしょう。東日本大震災に襲われた各地では、沿岸から離れた仙台市や盛岡市、福島市では3月11日に開設されているものの、被害があった地区では1週間から2週間後になっています。その時地元のメンバーだけで災害ボラセンを開設する事はほぼ不可能でしょう。

柔軟な組織作りを

全体統括の総務、会計、情報(外部への発信も重要)、ニーズ受付・調査、安全衛生は最低必要な部署です。災害ボラセン設立や運営で重要な事はこれではなければならない、と行った固定観念を持たない事です。状況に応じて柔軟に組織を改編するくらいの考え方が求められます。

また地元の力をどれだけ集められるかは非常に重要です。日頃の関係作りが問われてきます。災害対策本部にボランティア代表が入る事は絶対必要です。

過去の災害ボラセンでは「自分たちだけでは何もできなかった」との声を地元関係者から聞きます。外部の応援を前提にした訓練が必要になります。と同時に災害現場に行き、支援する中から実際に学ぶ事が重要です。(宇田川)

編集後記

☆ 更地になった後を雑草が生い茂っています。そこを風が吹き抜けていきます。人々の心にも冷たい風が吹き抜けているのが被災地の現状です。(宇田川)

☆ 10月20日いわき市久の浜町の花火大会のお手伝いに行ってきました。昨年にもましてたくさんの方が会場にいらっしゃいました。そして懐かしいボランティア仲間の顔を見る事ができました。(山本)

☆ 大震災から1年8カ月。忘れてはいけないと思いつつも、日常生活を過ごしている自分がいます。11月末には気仙沼へ足を運ぶ予定なので、そこでまた「被災地の今」をしつかりと見てお伝えできたらと思います。(山口)